

徳島大学 国際センターニュース

<http://www.isc.tokushima-u.ac.jp/>

No.13

2010.3

国際センター長からのごあいさつ ～この一年を振り返って～



国際センター長 細井 和雄

平成20年12月に徳島大学国際センターが発足してから、この3月で1年5ヵ月目を迎えることになります。新センター発足以来、学内のみならず、学外関係諸機関並びに地域の皆さまから多大なるご支援とご指導・ご鞭撻を頂きました。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

国際センターでは、旧留学生センターからの改組に伴い、まず、これまでの、留学生の日本語教育、相談指導が中心であった体制から、大学の国際化を推進するための業務も遂行できる体制へ、センター内の組織を刷新致しました。すなわち、①国際展開を推進するための業務を担う「交流部門」、②従来の留学生センターが行っていた、留学生の受け入れ支援などの業務と留学生教育（日本語教育、相談・指導支援）を担当する「教育・支援部門」、③センターの情報発信を担当する「文書広報室」という2部門、1室を設けました。

また、新たに国際センター内に国際関係業務に関して高い専門性を有する「国際プランナー」を配置し、本学の国際化を強力に推進できるように致しました。さらに、大学の国際化は、国際センター一部局のみが努力しても実現は困難であるとの認識の下、部局の意識の向上を図り、連携を推進する目的で、各学部から国際センターに「協力教員」を派遣して頂くことに致しました。これにより、各教員の担当業務が明確化され、国際化戦略を遂行するための基盤が整備されました。今後は国際プランナー、協力教員、国際センター教員、国際課の4者が協力することで、全学的に教育・研究の国際化を推進したいと考えています。

さて、今年度実施した特筆すべき事業としましては、「徳島大学卒業留学生同窓会（韓国）」の設立をあげることができます。これは、平成20年度、「徳島大学卒業留学生同窓会（中国）」の設立に引き続き実施されたものです。その他、「アジア人財資金構想事業」、「サマースクール・サマープログラム」支援、4回シリーズで行った「日本語教育シンポジウム」、「国際交流サロン」など、様々な国際交流活動を実施致しました。また、国際センターでは卒業留学生が相互にまたは指導教員と共同研究やビジネスを展開する機会を提供し、母校との連携を維持できるように、インターネット上に「ウェブ版徳島大学卒業留学生同窓会名簿（The University of Tokushima International Alumni Directory Web Site）」を構築致しました。さらに制度面では留学生が民間宿舎へ入居する際に要求される連帯保証人について、留学生と指導教員の精神的負担を軽減する目的で、「徳島大学留学生機関保証制度」を創設致しました。

これら事業は、国際連携推進室並びに国際センター教員・国際課職員の努力によって成し得たものであります。今後とも、関係の教職員一同、これまでもまして大学および地域の国際事業進展のため、お役に立てるよう邁進する覚悟でおりますので、学内外の諸兄には倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年3月

2009 年度 国際センター活動一覧

国際センターでは、徳島大学の更なる国際化に向けて様々な活動を行っています。今回の「国際センターニュース」では、多くの方々にセンターの活動を理解してもらうために、2009 年度にセンターが行った主な活動を簡単にまとめてみました。

2009 年度 前期

4 月	8 日	日本語研修コース（春期）：オリエンテーション・授業開始 同研修コースを受講する留学生 10 名に対する受講上のオリエンテーションを行った。	
	10 日	日本語研修コース（春期）：開講式 2010 年春期日本語研修コース開講式を執り行った。留学生 10 名が参加し、日本語で簡単な自己紹介を行った。	
	21 日	前期 English Chat Room 開始（毎週火曜・木曜 18:00～19:30）	
	23・24 日	新入学留学生ガイダンス（常三島地区・蔵本地区） 徳島大学に入学する約 35 名の留学生（学部生・大学院生）を対象に生活に関するガイダンスを行った。ガイダンスは、中国語・英語で行い、日常生活に関する基本的な情報、地元警察による安全・防災ガイダンスを行った。	
5 月	9 日	国際交流サロン 「日本語でしゃべらんで：世界の歌を歌おう」 参加者：留学生 15 名、日本人 18 名（合計 33 名）	
	11 日	全学日本語コース（春期）：開講 全学日本語コース（春期）では、常三島、新蔵、蔵本キャンパスで 9 つのコースを開講	
	16 日	アジア人財コース四国地区合同開講式 四国 4 県合同の開講式と研修が四国中央市で行われた。本学からは 20・21 年度生の 10 名、及びスタッフが参加した。	
	18 日	アジア人財コース 徳島大学開講式 徳島大学における平成 21 年度アジア人財コースの開講式を実施した。第 1 期生（5 名）と 2 期生（5 名）のうち 9 名が式典に参加した。	

6月	6日	国際交流サロン 「日本語でしゃべらんで： お寿司を作ってみよう」 参加者：留学生 17 名、日本人 23 名 (合計 40 名)	
	19日	日本語研修コース 県南訪問 (海陽町、美波町)	
	13日	第 1 回日本語教育シンポジウム (参加者 12 名) 「教育向けプレゼンテーションツールの研究」 講師：栗原一貴氏 (産業技術総合研究所 研究員) プレゼンテーションツール「ことだま」を使った授業実践に関する講演を行った。	
7月	3日～4日	日本語研修コース (春期)：研修旅行 海南小学校を訪問し、徳島の日本人の家でホームステイを体験した。	
	16日	ドイツ高校生との交流会 ドイツ・レムゴー市の高校生 16 名と総合科学部 日本語教授法 I 受講者 (30 名) の交流会を行った。	
	17日	全学日本語コース (春期)：終了 春期全学日本語コースには 78 名の留学生・海外研究者が参加した。	
	23日	前期 English Chat Room 終了 約 30 回実施し、合計 317 名の学生および地域の方々に参加してもらった。前期は共通教育センター English Support Room の協力の下で活動を行った。	
	25日	国際交流サロン 「日本語でしゃべらんで： 浴衣を着て阿波踊りを踊ろう」 参加者：留学生 19 名、日本人 21 名 (合計 40 名)	

8月	3日～8日 17日～22日	工学部・蔵本地区サマープログラム支援 工学部サマースクールおよび蔵本地区サマープログラムが8月3日～8日、8月17日～22日に行われ、国際センターおよび国際課で宿泊や文化体験などの運営サポートを行った。  
	19日	企業研究旅行 (JFE スチール、ナカシマプロペラ) アジア人財コースの一環として JFE スチール、ナカシマプロペラを訪問した。日本企業の実際の活動に触れ、外国人の採用についての話を聞くこともできた。 
	26日～27日	日本文化体験交流会：伊方発電所見学 愛媛県四国電力伊方原子力発電所への見学旅行を行った。29名の留学生が参加し、同原子力発電所および日本の原子力発電の現状について様々な講義を受けた。 
9月	11日	日本語研修コース（春期）：修了式 10名の留学生が修了式に参加した。自分の専門や徳島での生活体験に関する発表などを日本語で行い、修了証書を授与された。
	12日	第2回日本語教育シンポジウム（参加者48名） ・「多文化社会に生きる人のための日本語教育」 講師：岩田一成氏（広島市立大学 講師） 「おしゃべり」型で行う日本語教授法を中心に、共生言語としての日本語を地域でいかに教えていくのかについて具体例を通して講演して頂いた。 ・「多文化社会における地域 日本語教育の在り方と方法を考える」 講師：尾崎明人氏（名古屋外国語大学 教授） ボランティアの日本人が日本語を教える場は日本人自身が学ぶ機会でもある。本講演は「地域日本語教育の体制やそのあり方」について考える良い機会となった。 
	26日	国際交流サロン 「日本語でしゃべらんで：友達になろう」 参加者：留学生 11名、日本人 16名（合計 27名）

2009 年度後期

10月	7日	日本語研修コース（秋期）： オリエンテーション&授業開始 日本語研修コース（秋期）に参加する 14 名の留学生に対し、コース受講上の注意点および生活上の留意点に関するオリエンテーションを日本語・英語で実施した。	
	9日	日本語研修コース（秋期）：開講式 日本語研修コース（秋期）の開講式を執り行った。同研修に参加する 14 名の留学生が日本語で自己紹介を行った。	
	13日	後期 English Chat Room 開始 （毎週火曜・木曜・金曜 18：00～19：30）	
	16日	新入学留学生ガイダンス（常三島地区） 後期より徳島大学に入学する 14 名の留学生に対し生活に関するガイダンスを中国語・英語で行った。また、地元警察による安全・防災ガイダンスも行った。	
	19日	全学日本語コース（秋期）：開講 全学日本語コース（秋期）では、新蔵、蔵本キャンパスで9つのコースを開講	
	23日	留学生のための就職支援フォーラム 企業の採用担当者や徳大卒業生を招き、留学生の日本での就職についての話を伺った。計 55 名が参加した。	
	31日	多文化体験交流会（於：工業会館） 常三島工学部内工業会館において多文化交流会を行った。留学生 100 名、日本人学生 30 名、日本人教職員 10 名、地域住民 15 名が集まり、異文化交流を行った。	

10月	31日	国際交流サロン 「日本語でしゃべらんで：書を楽しもう」 参加者：留学生 18 名、日本人 19 名 (合計 37 名)	
11月	7日	第 3 回日本語教育シンポジウム (参加者 30 名) ・「日本とアメリカのコミュニケーション」 講師：橋本智 (徳島大学 准教授) ・「日本語教育とコミュニケーション・スタイル」 講師：越前谷明子氏 (東京農工大学 教授) 教科書をそのまま教えるのではなく、実際の場面にあったコミュニケーション・スタイルを考えて、適切な表現を提示していくことを講演して頂いた。	
	21日	国際交流サロン 「留学生の国への誘い：日本語による留学生のお国紹介」 参加者：留学生 21 名、日本人 21 名 (合計 42 名)	
	25日	企業のための留学生採用支援セミナー 中小企業と留学生の交流会 6 社の企業の参加があり、留学生 22 名を合わせて 36 名の参加があった。	
12月	5日	企業研究旅行 (日本食研、アサヒビール) アジア人財コースの一環として日本食研、アサヒビールを訪問した。両社の製品に関する説明などを受けることで、日本での就職を具体的な形でイメージするための支援を行った。	
	5日	国際交流サロン 「日本語でしゃべらんで：茶道を楽しもう」 参加者：留学生 18 名、日本人 19 名 (合計 37 名)	
	18日	第 4 回日本語教育シンポジウム (参加者 40 名) 「日本語教育と発音指導」 講師：川口義一氏 (早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授) 「ヴェルボ・トナル法」や「サイレントウェイ」といった方法を発音教育に取り入れ、リズムに注意しながら発音指導をする方法について講演して頂いた。	

19日

徳島大学卒業留学生同窓会（韓国）

「徳島大学卒業留学生同窓会（韓国）」を韓国釜山市で設立した。当日は、韓国出身の徳島大学卒業生、修了生、元徳島大学外国人研究者など約 20 数人が集まり、同窓会の役員組織や会則等を定めた。徳島大学からも同窓会顧問として青野学長や理事・副学長等 10 数名の教職員が出席した。



21日

現地見学研修旅行：トヨタ自動車（愛知）、京都

留学生に日本と日本文化の理解を深めてもらうため、愛知にあるトヨタ自動車本社工場と京都を見学した。



1月 7日

スキー旅行：（鳥取県若桜）

鳥取県若桜氷ノ山スキー場にてスキー研修を行った。留学生 38 名（引率 2 名）が参加し、インストラクターの指導の下でスキーやスノーボードを体験した。



15日

**企業研究旅行
（積水化学工業 & サントリー）**

アジア人財コースの一環として積水化学工業、サントリーを訪問した。製品の製造工程に関する講義などを受けることで、日本の企業に対する理解を深めた。



16日

国際交流サロン 「日本語でしゃべらんで：世界の料理を楽しもう」

参加者：留学生 16 名、日本人 31 名（合計 47 名）

17日

まほろば国際プロジェクトⅢ

美馬市脇町劇場オデオン座にて演劇を含めた多文化交流会を行った。留学生、地域住民、合わせて 160 名が参加した。



1月	29日	後期 English Chat Room 終了 後期は約 40 回実施した。学生および地域の方々、257 名に参加してもらった。後期も引き続き共通教育センター English Support Room の協力の下で活動を行った。	
2月	2日	全学日本語コース（秋期）：終了 秋期全学日本語コースは、83 名の留学生、外国人研究者に対し 9 つのコースを提供した。本年度は春・秋合わせて 18 コースを開講し、のべ 137 名の留学生が受講した。	
	2日～3日	アジア人財 留学生のための就職支援講座 外部講師を招き、外国人の就職活動について話を聞いた。また、日本人学生も参加し、面接練習を行い、就活の準備をした。外国人特有の課題についても取り上げた。	
	6日	国際交流サロン 「日本語でしゃべらんで：着物の歴史を学んで、着てみよう」 参加者：留学生 29 名、日本人 32 名 （合計 61 名）	
	11日	吉野川プロジェクト発表会 共通教育「日本事情」を受講する学生 6 名が、「吉野川プロジェクト」で調査した内容を発表した。日本人学生 45 名、学外からも約 10 名の日本人が参加した。	
	26日	アジア人財コース 1 期生修了式 アジア人財コース第 1 期生の修了式を行った。1 期生 5 名がコースを通して学んだ内容を基に日本語による就活を踏まえたスピーチを行った。	
	27日	国際交流サロン 「日本語でしゃべらんで：ひな壇を飾ろう」 参加者：留学生 14 名、日本人 29 名（合計 43 名）	
3月	1日	日本語研修コース（秋期）：修了式 日本語研修コース（秋期）の修了式を行った。13 名の留学生が参加し、自国についての紹介や自分の将来の研究テーマなどについて日本語でスピーチを行った。	

3月 2日

第6回徳島大学国際展開推進シンポジウム 「母国で振り返る私の 徳島大学留学生時代」

4名の元留学生が母国での活動状況や留学時の体験について講演した。大学教職員、徳島大学に在籍している留学生、中国や韓国に進出している地元企業関係者、そして4人の元留学生が留学当時ホームステイなどをした家族、国際交流に関心のある地元市民など96人が出席した。



外国人留学生交流懇談会

2009年度に徳島大学を卒業・修了する留学生を対象に、外国人留学生交流懇談会を開催した。留学生とその家族148名、日本人教職員約52名（合計約200名）が参加した。



3日

平成21年度「大学教育カンファレンス in 徳島」

同カンファレンスにおいてワークショップ（1件）と日本語教育における実践発表（2件）を行った。



交換留学生の紹介



徳島大学は現在 42 の大学・教育研究機関と交流協定を締結しています。2009 年 10 月からは、武漢大学（中国）と慶北大学（韓国）からの学生 5 名が総合科学部で交換留学生として日本人学生と共に勉強しています。

イム・ナレ 慶北大学（韓国）

こんにちは、韓国の慶北大学から来たイム・ナレと申します。

私は幼いころから外国語が好きで、「外国語を自由に話せたらどんな気分だろう…」と思い、日本語の勉強を始めました。その結果、私は今、徳島に留学することになったのですが、徳島に来て思ったのは「自然が豊かなところだなあ…」ということです。私は徳島の自然、その中でも夜の空が好きで、帰り道でよく夜空を見上げたりします。徳島は街灯がちょっと少ない気もしますが、空の星がその代わりになってると思っています。（毎日の救急車の音には結構驚いたのですが、今はだいぶ慣れてきました。）

私は徳島で「隠れ場所探し」をしたいと思っています。道に迷いながら珍しい風景とかを見つけるとかなりうれしいのです。

王宇茜（オウ・ウ・セイ） 武漢大学（中国）

みなさん、こんにちは！中国の武漢大学から来た王宇茜（オウ・ウ・セイ）といます。交換留学生として徳島に来たのが去年の 9 月ですので、もう 6 ヶ月間徳島で生活したことになります。時間というものは本当に早いんですね…。

私は徳島大学に留学して本当によかったと思っています。脇町オデオン座での初舞台、日本人家族との初ホームステイ、着物変身、日本のお正月などの新しい体験、さまざまな人との出会いとおしゃべり、おいしい食べ物、どれを取り上げてみてもこの 6 ヶ月間の毎日はとても楽しいものでした。徳島のみなさんはとても親切で、いろいろ助けてくれました。これからは日本語をもっともっと勉強して、いろいろなところに行ってみて、日本の美しさを楽しみたいと思います。



ジョン・エラ 慶北大学（韓国）

韓国の慶北大学から来たジョン・エラです。

慶北大学では、日本語・日本文学を勉強していき、卒業したら韓国で日本語の教師になりたいと思っています。他の交換留学生と同じく、昨年 9 月から徳島大学で日本語と日本文化の勉強をしています。



これから 6 ヶ月間でやりたいことは、やはり旅行です。友達と一緒に、箱根、大阪、ディズニーランド、東京タワーなどに旅行して、楽しい思い出をたくさん作りたいと思っています。（もちろん、徳島の阿波踊りも楽しみです！）

まだ、徳島に来て 6 ヶ月なので、少し不安もありますが、これからの体験を楽しみたいと思っています。みなさん、よろしくお願いします。

交換留学生の紹介

沈亜楠 (シン・アナン) 武漢大学 (中国)



中国の武漢大学から来ました沈亜楠(シン・アナン)です。大学での専門は日本語で、今は徳島大学で交換留学生として勉強しています。

私は、異文化を体験し、自分の視野を広げたいと思って、徳島にやって来ました。徳島に来て、あっという間に6ヶ月が過ぎたのですが、今では生活もだいぶん慣れ、ますますこの静かな町のことが好きになってきました。

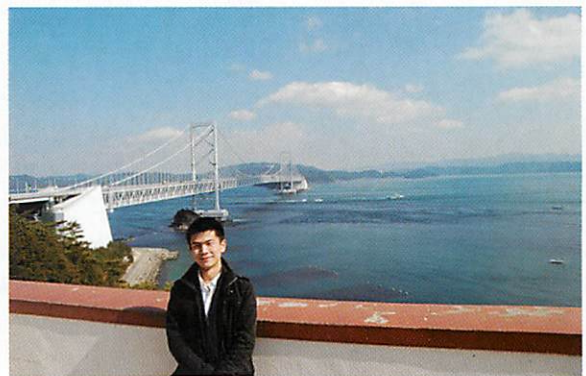
徳島の一番好きなところといえば、やはりその「ゆったりとした生活」だと思います。夕方の吉野川を見たら、心が静まります。これほど落ち着く生活は徳島が初めてです。それに、人も非常に親切だと思います。最初の時、いつも道を迷ったりしたのですが、道行く人がゆっくりで話しかけてくれて、道案内をしてくれたりしたので、とても助かりました。今でも徳島の人達には非常に好い印象を持っています。

これから、まだ6ヶ月ありますので、日本の各地を旅行したいと思っています。もっと日本の文化や風習を知り、人との触れ合いを通して、自分をもっと成長させたいと思っています。

張逸馳 (チョウ・イチチ) 武漢大学 (中国)

皆さん、はじめまして、中国の武漢大学から参りました交換留学生の張逸馳と申します。中学校二年生の時からずっと日本のアニメやドラマが好きで、大学に入ってから日本語を専門に勉強することにしました。そして、幸運にも徳島大学に留学する機会を手に入れた私は、6ヶ月前に徳島にやってきました。

本当の意味で外国語を学ぶためには、その国で生活することが大切だと思います。徳島は小さな町ですが、きれいで生活しやすい所だと思いますし、誰もが優しく、何でも親切に教えてくれる素晴らしいところだと思います。日本では、ごみが詳しく分別されていて、エスカレーターに乗る時、人が自主的に道をあけるなど、自分の国には見られない習慣をたくさん学ぶことができます。これからの6ヶ月間でもっと日本の文化や習慣を学んで、国際交流を深め、自分の夢を実現するためにも、頑張りたいと思っています。



(五十音順)

編集後記

2009年度は国際センターにとってははじめの一步を踏み出した年であったと思いますが、この1年5ヶ月の間、多くの方々からのご支援を賜りました。紙面上ではございますが、厚く御礼申し上げます。まだまだ至らないところもあるかと存じますが、2010年度も変わらぬご支援・ご鞭撻をよろしくお願い致します。



発行日：2010年3月31日

発行 徳島大学国際センター
住所 徳島県徳島市新蔵町2丁目24
徳島大学地域・国際交流プラザ
(日亜会館) 2階
Tel. 088-656-7082
<http://www.isc.tokushima-u.ac.jp>